



みなまたびょうしりょう かんきょう
【水俣病資料館で語り部さんの話を聞き、環境の大切さを学ぶ子どもたち】

みなまたびょう

水俣病は公害の原点とされています。

みなまたびょう めぐ
 水俣病が起きたことで、それまで豊かな海からの恵みにより平和な生活を送っていた人たちは、次々と病気になり、苦しみながら亡くなっていきました。生きていた人も、水俣病の痛みとたたかいつつながら日々の生活を送っています。

みなまたびょう かんじや
 また発生当時、水俣病は伝染病・奇病とこわがられ、患者さんは差別を受けることもありました。さらに、伝染病や風土病と誤解され、就職や結婚がダメになるなど、水俣の市民に対する差別もありました。

みなまたびょう た
 水俣病問題は新たな裁判が始まるなど、発生から50年が経とうとしている今も解決していません。苦痛と困難の歴史を生き抜いてきた水俣市民は、二度とこのような悲惨な公害が起きてはならないと環境モデル都市づくりを始めました。

さっし かんきょう
 この冊子は、水俣病を教訓として水俣市民が実践している環境モデル都市づくりを紹介しながら、誰にでもできる身近な環境づくりの輪を広げ、公害のない世界をみんなでつくっていきましょうというものです。水俣病資料館等で公害の悲惨さを学ぶだけでなく、その思いを持ち帰って環境実践活動を子どもたちにも取り組みさせたいという学校や団体が増えていますので、この冊子をぜひご活用ください。

さっし かんきょう
 なお、本冊子は、水俣病資料館のホームページ (<http://www7.ocn.ne.jp/~mimuseum/>) からでも無料でダウンロードできるようにしてありますので、水俣病資料館を修学旅行・環境学習旅行等でご来館される前の事前学習用教本としてもご活用ください。

2006年（平成18）3月

「やってみよう！身近な環境づくり」

～水俣市の環境モデル都市づくりから～

編集・発行 水俣市立 水俣病資料館